

第14回公立大学法人神戸市看護大学評価委員会

1. 日 時 令和7年8月5日火曜日 14:54~16:41

2. 場 所 三宮研修センター 902号室

開会 午後2時54分

○事務局

ただいまより、第14回公立大学法人神戸市看護大学評価委員会、開会をさせていただきます。

評価委員会の皆様におかれましては、大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。本日全体の司会進行を務めさせていただきます健康局部長の梅永でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。では、ここからは座ってご説明させていただきたいと思います。

まず委員の皆様のご紹介につきまして、お手元の委員名簿の順に沿って、ご紹介をさせていただきます。

(委員紹介)

○事務局

続きまして、神戸市及び神戸市看護大学の出席者につきましては、主な幹部職員について、裏面の名簿に沿って、ご紹介をさせていただきます。

(神戸市・神戸市看護大学 出席者紹介)

今回の会議でございますが、委員の皆様5名、皆様ご出席をいただきてございますので、当評価委員会につきましては有効に成立しておりますことを、ご報告をさせていただきます。

会議資料につきまして、非常に多くなってございますが、議事次第の下段に記載のとおりでございます。併せて、用語解説集も参考に置かせていただいてございまして、ご活用いただければと思ってございます。資料の不足等がございましたら、

また、事務局までお知らせをいただければと思います。

では、早速議事に入ります。以降の進行につきましては、樂木委員長にお願いをいたしたいと思います。

樂木委員長、どうぞよろしくお願ひいたします。

○委員長

それでは議題（1）2024年度業務実績に関する評価、それから、議題（2）第1期中期目標期間の業務実績の評価につきまして、一括して神戸市看護大学より説明をしていただき、その質疑を行いたいと思います。

次に、あらかじめ委員の皆様からいただいたご意見を基に、私と事務局で評価の案をまとめています。それを事務局からご説明いただきたいと思います。

さらに、その後、質疑を行った後に評価を決定いたしますけれども、その際には、大学の皆様には一度、ご退席いただくことになっております。

委員の皆様方には、資料1-1、資料2-1を基に、大学並びに事務局の説明をお聞きください。

また、説明をお聞きいただく際には、資料1-1についてはSからCの4段階評価、資料2-1についてはVからIの5段階評価をご検討いただくとともに、評価の文面についても併せてご検討ください。

それでは一括して大学から説明をお願いいたします。

（令和6事業年度及び第1期中期目標期間の業務実績について看護大学より説明）

○委員長

ありがとうございました。

それでは、議題（1）の2024年度業務実績に関する評価、それから、議題（2）の第1期中期目標期間の業務実績の評価につきまして、委員の皆様方からご意見、ご質問をいただきたいと思います。

時間は十分取っておりますので、適宜お話しいただければと思いますが、いかが

でしょうか。ご質問でも結構だと思うんですけども、よろしいでしょうか。

最初に私から、取りまとめをしたという関係で、少しお話をさせていただきます。

自己評価のとおり、委員会の評価を私がつけておりますのは、ざっと読ませていただきまして、目標の設定が正しいかどうかっていう議論はさておき、目標に対して実施されていることに関しては、自己評価は非常に正確に行われていると。中期計画のほうに関しましては、SとAとがずらっと並んでいるわけすけども、その並び方と4段階評価とが一致しているかというと、なかなかそうではないんですけども、内容を読ませていただくと、きちんと自己評価の内容に相当することができている、あるいは、できていない部分がある。できていない部分があっても、トータルで見た結果としては評価を落とす必要はないのではないかといったことが理屈として理解できました。先ほど熊谷局長、北理事長からお話をありましたけども、この6年間の活動というのは、本当にコロナ禍の中でしっかりとされてきたというのがありますし、この1年間の評価についても同じような視点で見たときに、足りない部分を確実に補っていらっしゃるというところで、自己評価のレベルは妥当ではないかということを思いました。

特に、三井先生から細かい事前の意見をいただきました。本当に詳細に見ていただきましてありがとうございます。そのことも含めまして、委員長として取りあえず、取りまとめさせていただくということでやったという経緯です。本日は、追加でのご質問、今のご説明の中でお気づきの点をご意見を言っていただいて、自己評価分をさらに上げる。あるいは、やっぱりもうちょっと下げるべきではないかといったところがあるかどうかのご議論をしていただけたらと思います。年度の分も、中期の分も両方併せてお話しitただければと思いますので、どうぞ。

○委員

拝見いたしまして、本当に教育、広報、ICT活用して実習連携など多方面にわたって、非常に高い実行力、そしてまた改善、コロナ禍では本当に大変だったと思うんです

けども、改善への努力、また、それを乗り越えようとして新たに、特に海外との連携であったりとか、国際的な発信、また教育にそれを生かしていくという取組が、とてもすばらしいなというふうに感じられました。

そして、広報活動の成果ですね。オープンキャンパスに高校生、たくさんの方に、来ていただいて、実際に先生方、あるいは学生と触れ合う中で、本学のよさというものを実際に感じていただいて、それがまた入学者の増加という形になっていくのではないかというところで、とてもよかったですなということと高校訪問を広域化され、また、いろいろなところでご苦労があったかとは思うんですけども、そういうふうに広報活動を積極的に行われたことが、学生の質の向上であったりとか、その後の教育の改善、国家試験の合格実績につながっていったのではないかと感じました。

この教育の改善というのもなかなか難しいですし、また、先生方の研究活動の支援というのも、とても難しいところに取り組んでおられるなと思ったのですが、やはり学長、理事長のガバナンスの下、委員会の整備、規程を変えていくのも大変な作業だったと思うんですけども、委員の縮小であったりとか、先生方の、あるいは教職員の業務負担軽減に向けて努力されたというところは、先生方の教育であったりとか、あるいは学生に向けての教育に、とても大きな進歩ではなかったのではないかというふうに感じております。

また、本学の特色である地域と連携した実践や地域支援、あるいは、そこに学生を巻き込んでいくところでコロナ禍での体験を活用されており、本学の特色をより前に出していくために、とても大事な活動をされておられるところも非常に魅力的だなというふうに感じました。

今後の課題としては、データの可視化について私は少し思うところがあったのですが、入学前からの学びへの向き合い方、入学前教育ですよね。学習支援の仕組みのところをより可視化すると、入学後の学習支援体制の強化につながっていくと思

いますし、ひいては休・退学者の削減という形にもつながっていくのではないか。
つまり学びへの向き合い方を、大学に入って急に学生に向き合わせるのではなくて、
入学前から準備を積み重ねていくということ、これは大学からのメッセージにもな
ると思いますし、またそれを可視化して広報に生かしていくことも大事かなと思っ
ております。

評価指標の明確化は委員長のほうからもご指摘があったかと思うのですが、評価
する際に本当に客観的な評価の在り方は難しいかなとは思います。ある程度の客観
性と、少し主観的なところは入っても良いのかなとは思いますが、より評価しやす
い評価指標の在り方というところも、今後の改善点ではないかと思っています。

以上でございます。

○委員長

どうもありがとうございました。おっしゃられるとおりの内容が多々ありますけ
れども、全般的には私が申し上げました意見と同じような内容かなというふうにお
見受けしました。いかがでしょう。一人ずつ順番でご意見いただけますか。

○委員

大変、緻密な資料を作っていただきましてよく分かりました、どうもありがとうございました。

外部の組織の市民のニーズに応えるという部分の目標では、外部から依頼されな
いと応えられないという部分があって、評価が難しいところだなとは思いました。
内部の努力といたしましては、大学の職員の皆様が24年度の資料を見ていて、それ
ほど目立たなかったんですけども、中期計画の実施状況を見ておりますと、じり
じりと大学院の休・退学の可能性がある学生の状況が改善されていまして、大学院
生の進捗状況を細かく丁寧に把握されて指導されてきた努力、指導されてきた結果
が実りつつあるのかなと思って喜んでおります。

学部生の国家試験の合格率に関しても100%というのは、とても難しいところで

して、もっともっと評価してもいい。かなり細かい指導をした結果、達成できた内容ではないかなと思って、もっと高く評価してもいいのになと思っております。ご苦労さまでございました。

○委員長

ありがとうございました。

100%を続けるって本当に大変なことだと思います。看護大学の中の大学院を除いた部分ではもう、それがもう一番重要な課題だというのは、多分皆さん同じ認識だと思うんですけど、そこを100%で続けてこられた上に、何を積み重ねられるかというのを今、評価させていただいているという状況だと思います。

○委員

私も評価はこのままでよろしいかと思います。協会と神戸市看護大学の連携、地域に貢献できるようにというところで、目標に上げていただいている、32ページのところですね。協会等と神戸市民病院と連携して育成をしていくところで、協会からの依頼がなかったということになっていますが。ちょうどコロナ禍を経て、研修、講師の依頼っていうところでいければ、2年か3年を同じ先生にお願いしてというサイクルが出来上がっていますので、次、また神戸市看護大学の先生方にお願いして、兵庫県下の新人研修、あるいは、中堅、多くの卒業生を出されているので、その大学の先生が講師に立つということで、すごく受講生のモチベーションに繋がるのかなとは思っておりますので、今回の評価はもちろん事実なのですが、今後とも連携していければありがたいなと思っていますので、こちらからのお願いです、よろしくお願ひいたします。

○委員長

ありがとうございました。

○委員

いつも資料が大量に來るので、自分が見ていた資料で見ようと思ったら今日はま

た別の資料がある。おっしゃっていた内容を自分の見てきた資料で追いかけようとしたらページ数が違う。だから全然見れないということでちょっと統一をしてもらいたい。メールが来ると構えてしまいますね。どれだけの量の資料が来たのかと思って。一応、印刷はすることにしているからすごく重量があるんですけども。

私は財務のほうに関して、意見を言わせていただきますと、監事の臨時監査があって内部統制が不備だと言われて、それに対応するために人を増やしました、プロパーの人を増やしましたとかいうふうに書いておられるんですけど、最終的にはこれはモニタリングしないと人が増えたから一体どうなったんですかと。人が増えたからいいのではなくて、人が増えて結果が出るということでPDCAを回さないといけない。人が増えたのは準備ができたと。計画ができたので、実際にどうなったのかという、結果報告をまたしていただきたいと思うのですけども、看護単科大学はあまりなくて、短期大学とくっついている学校法人とか。だから数字がそのものを単科大学同士比べるという、私立大学の数字というのは実際はないので、セグメントの看護大学だけについて比較して、市看がどうなのかということも一つの参考になるということで、先ほど申しましたように内部統制のことを言わされたので、人を増やしましたということで、これから結果を出していただきたいわけですけども、幾つもの学校と比べたわけではないんですけど、やっぱり教員数とか職員数がかなり潤沢なんですね。特に、教員の方の、常勤の方の人工費なんかは、その前の年に比べると5,000万円ぐらい上がっているんですけども、非常勤が少し減っている。私の見た資料では、15ページに記載があるんですけども。

○神戸市看護大学

参考資料の1の事業概要、事業報告書の概要版の15ページ。

○委員

役員及び教職員の給与の明細というのを見て、今、しゃべっているんですけども、15ページというところですね。

常勤人件費、人件費が増えるということは喜ばしいことで、学校法人に関しては企業のように人件費を圧縮したから、削減したから所得が出たり利益が出たり、剩余金、差額が出たりというのは全然好ましいことじゃないので、むしろ人件費を投入されて、優秀な教員、職員の方を登用されて学生の教育環境に資するということが目標ではあるんですけども。公立大学法人としてもやはり過大な人件費というのは、これ適正な形にしていかなきゃいけないんですけど、この15ページを見ますと、教員のところで常勤が5億5,469万2,712円、12となっているんですけども、人数が52名ですね。昨年度と比べますと、これが49名で3人増えているんですよ。3人増えているんですけども、報酬の額は、去年が5億ちょうどぐらいだったので、5,000万円ぐらい増えているんですね。これ人件費のベースアップをして見直されたというのと、3人、人が増えたということですけど、かなりの増加なんですね。1年で5,000万円、人数は3人増えたということですけど、教員の常勤の人件費だけで5,000万円増えていると。非常勤は今3,617万640円になっていますけど、人数は去年より1名減っただけなんですね、非常勤は去年22名でしたから。去年は5,000万円ぐらいだったんですね。1名減ったからといって、減り方がまた、1,400万円も一気に減っているということで、これ先ほどの常勤の場合もそうですけど、増え方がひどいし、非常勤は減り方がひどい。ちょっと分かりにくい増減なので、また教えていただきたい。何で5,000万円も急に常勤の教員の報酬が増えて、非常勤は1名減っただけなのに1,500万円も。くくり方が違うのかも分かりませんけれども。

それから、職員につきましては、常勤が2億1,709万4,629円とになっているんですけども、ここは3名増えておりまして、去年が1億9,400万円ぐらいですかね。ここは先ほど来、プロパーの職員を増やしたというようなことをおっしゃっていましたけど、その影響が出ているのではないかと思います。

同じような分類をしている学校と比較するのはなかなか難しいんですけども、大きく言いますと、やっぱり常勤の教員の方も常勤の職員の方、非常勤145名、今、理

事も併せていらっしゃるんですけど、普通、私学の大学の場合、役員の数というのは非常に少ないし、役員報酬というのは、ほとんど取ってないので、その分は公立大学法人の特徴で、8,025万2,000円役員報酬計上されているのですが、これ私学ではこんなに役員報酬を計上していませんので、実際の職員と教員の方、常勤、非常勤は、それぞれ学校によってバランスがあるんですけど、全体的には教員も職員の方も非常に潤沢に投資されていまして、学生さんにはいい環境にあるのではないかというふうに思います。

一方、財務の規律ということでいきますと、あまり過大な人件費ということについての経営の足かせになるということも考えないといけないということを考えながら、人件費については投資していただくということが必要ではないかと思います。

それから、少し進んでいただきまして、事業報告書の13ページというところあるんですけども、これ質問なんですけども、事業報告書の13ページに予算、決算の概況というのが書いてあるんですね。上に、2019年度から2024年度まで、2024年度が直近だと思うんですけども、ここに例えば、支出の下の枠なんですけども、2023年度と2024年度を見ますと、下から4行目の教育研究経費というのが、2023年度決算では2億1,100万円となっているんですけども、2024年度は1億2,200万円となっているんです。なぜこんな大きく減ったのかということを知りたいんですけど、そもそも、こここの1億2,200万円、教育研究費はどこに出てくるんですか。先ほど来、お話しされていた財務諸表には、こういう数字が出てこないと思うんですけど、130ぐらいで出てくるかも分かりませんけど、決算で、教育研究経費が一番右端のマスの下から5行目、122って書いてあるんですけど。この数字は一体どこから出てくるのかが分かったら教えていただきたい。

昨年度と比べて、教育研究経費が2億1,000万円から1億2,200円に減っていましたよね。大体同じぐらいだと思うんですけどね。こんなに教育研究経費を減らしたら、問題起こると思うので多分、誤りじゃないかと思うんですけど。

○神戸市看護大学

一番最後でおっしゃられたところが13ページということですか。

○委員

今、配られている資料では、参考資料2-2と右肩に書いてあって、2024年度事業報告書第6期って書いてあって。その13ページ。

ここに教育研究経費122とあるんですけど、これが何の数字ですかっていう。決算で出てこない130が出てくると思うんですけど。それに、2023年度に比べたら大きく減っていますよね。参考資料なので、決算の数字とは違うのでもいいんですけど、教育研究経費が、2021年度は2億台、2022年度は2億3,000万円、2023年も2億1,000万円で、2024年度になると1億2,200万円。なぜこんなに減るのか。この表って見たら変なんですね。例えば、予算と、一般管理費の予算と決算見たらすごい乖離があるんです。倍と半分ぐらいあったりして、2021年度と。

ですから、これ分析のために何か使われたのかも分かりませんけど、出どころとか、財務諸表とか決算書との整合性が取れてないので、この表は一体どういうものですかというのを聞きたかったということです。

決算の内容は先ほど、法人部長が説明されましたように、適正に処理されていると私も思います。人件費がだんだん学校の財政に負担になっているというふうには学長は考えておられるんですか。あんまり考えておられないですか。

○神戸市看護大学 学長

人件費ですね。人件費がかなり高いということは感じておりますし、そのところに関してはDX、要するに、ロボットだとかAIだとか、そういうものを導入して、できるだけ業務のスリム化を図っていくというのを、今後、検討しているところでございます。ですので、感覚としては、人件費が高いというのは認識をしております。

○委員

先ほど言いましたように、学校法人の人事費というのは特色でもあるので、多いなら多いなりに手厚いサービスをしているということで、もう少し、特に、ホームページなんかも書いておられなかったので、これって病院のように 7 対 1 とかあるんでしたっけ。

○神戸市看護大学 学長

特にそういうのはないです。

○委員

ないんですか。じゃあ、手厚いわけですよね。

○神戸市看護大学 学長

公立大学は全般的に大体、学生対教員の比率というのは、これぐらいの割合かと思っております。公立大学の中では本学よりも多いところもございます。

○委員

私学に比べ、公立大学の特徴でもあり、強みでもあるわけですね。私学はもっと少ないですもんね。

○神戸市看護大学 学長

はい。教育研究といつても地域に根差した地域貢献も含めて、しっかりと教育を行っていくというところが、やはり公立大学の大きな狙いでもありますので、もちろん研究も大事なわけですけれども。

○委員

私、財務のほうを中心に見させていただいたんですけど、各委員からお話をありましたように、前半の部分もコロナのときに非常に貢献されたということもありますし、ただ、こちらが例ええば、中央市民病院といろいろ活動しようとされている、県立大学と活動しようとされていると、相手の事情と合わなくて結局、空振りに終わりましたみたいのが多いので、現実的には中央市民病院の方はもう忙しくて、フルタイムで働いているので、我々学生の立場と時間の配分が違うので、それはう

まく合わす。前さばきをやらないと、計画だけ立てても、向こうは業務を優先しますから空振りに終わるんじやないか。その辺は実際に結果が出るような形で無理のないような計画をつくっていただきて実現していただく。結果ゼロでしたみたいなことになるのは、多分、こちらのプランが合ってないんだと思いますので、その辺は実績をぜひ残していただくためには条件を少し緩めて、相手に合わすということも必要かと思います。

以上です。ありがとうございます。

○神戸市看護大学

先ほどの13ページの人件費の分でございます。2024年度決算につきまして、人件費、教員の人件費が増えているところなんんですけど、退職給与の費用、が2名、長い勤務をされていた方がいらっしゃいました。その分が6,900万円ほどでございます。その部分が大きく影響しているんじゃないかなという報告でございます。

○委員

人件費の右に内数で書かれているんですね。報酬または給与等と右側が退職給付。

○神戸市看護大学

そうです、退職給付ということで、内数が増えていきます。

○委員

増えてますよね、倍ぐらい増えてますもんね。

○神戸市看護大学

はい、そちらでございます。

○委員

それが影響したんじゃないかなというふうにおっしゃっているのですね。

○神戸市看護大学

はい、そのとおりです。

○委員長

定率ではなくて、退職のほうは普通なんですね。

○神戸市看護大学

普通です。

○委員長

もう一つのほうは。

○委員

事業報告の13ページの数字がどこから来たのかということをまた教えていただいたら。

○神戸市看護大学

教育研究費のほうなんですけれども、今データが手元にはないんですが、こちらの金額増減しておりますのは、年度の途中から、令和5年度あたりだと思いますが、学内の改修を行ったということがございましたので、それに伴うものだと思います。回廊の改修であるとか、トイレの改修や美装化、Wi-Fi化などが該当するんじゃないかということなのですが、再度調べさせていただいて提出させていただいたいと思います。

○委員

その前提として、122と書いてある数字がどこから来たのかというのが、決算の報告とかからは来ないと思うんですね、この数字は。決算報告から来のであれば130とか、そういう数字だと思うので、まず、どこから来ているかいうのを教えていただいたらいいかと思います。

○神戸市看護大学

承知しました。

○委員長

ありがとうございます。教員の確保というのは、昨年も同じような話をしたと思うんです、大変難しいと。質を担保していかないと、継続性が持てないといったこ

との中で、一定の質の人を確保するための工夫というのがいろいろあるというのは、昨年もご回答があったかと思います。それに合わせての変動であればといったことで思っておりましたけど、それと別に、退職金との関係であれば、大きな変動ではなかったということかも分かりません。どういう年齢層の方が教員として雇われるかで、大きく変わることもございますので。それもあるのかなと思いますけども。貴重なご意見、ありがとうございます。

また、不明であった点につきましては、個別、整理してご回答いただくようにお願いいたします。

そのほか、ご意見ございませんでしょうか。

○委員

先ほど、申し忘れたことがございました。本当に細かいところですが、2024年度の教育方法の内容のところで、新カリキュラムについての評価の実施をされておられます。新カリキュラムが学生への調査結果では、非常に適切に評価されているということで、とてもよかったです。が、ディプロマポリシーをループリックとして、成績評価に活用されていると思うのですが、それは学生自身に何かフィードバックしたりとか、学生自身がループリックに関してアンケートに答えたりということはございますでしょうか。

○神戸市看護大学 学長

卒業前の4年生の学生に対してアンケートをさせていただいて、ディプロマポリシーに沿った形で、どの程度達成できているのかっていうのをお聞きして、そのデータを本人に卒業式のときに返している。形としてはそういうアンケートを取って、学生に返しているという状況でございます。

○委員

ありがとうございます。4年間、どういう学びがあったのかという理解の促進にとても良いと思います。もし可能であれば1年次から卒業に向けてどういう力をつ

けることができるのかというところも学びの展望という形でアンケートを取る、つまり1年次からループリックでディプロマポリシーに応じて、自己評価してもらうことによって、今後どのような学びを重ねるべきなのか、あるいはどこが学び足りないのかについて考えることができるのではないかと思っております。

以上でございます。

○神戸市看護大学 学長

貴重なご意見ありがとうございます。今年度から新たに内部質保証推進会議という会議体を設けまして、それで学習成果の可視化っていうところにも重点を置いて、どういう形で可視化していくのかというのを考えていこうとしているところでございますので、今おっしゃっていただいた学びの、その成長のプロセスというのは、学生が見える形で評価をし、学生にもそれを返していくということを今、計画中でございます。

○委員長

ありがとうございます。ほかよろしいでしょうか。

北先生、どうぞ。

○神戸市看護大学 理事長

さっき、松山委員のほうからご指摘いただいた給与の問題もあるんですけども、実際のところいうと、我々、監事の先生に、内部統制のことでご指摘をいただいて、実際には、市からいただく運営費交付金ではなくて、自腹で3,000万円使って2人雇って、やっているもんですから、自腹といつても市長が認めていただいた余剰金でお金をためておって、それを使ったんですけどね。それは非常に効果があったのはプロセス、結果を教えていただきたいとおっしゃられたとおりなんですけども、僕が非常に気にしているのは委員会の数が物すごく多過ぎまして、それはもう教職員を圧迫しているだろうと。先ほどご説明いただいたとおり、重複を避けて物すごい減らしているんです。そこにも一つは物すごい成果が出てきているのもあります

ね。だから、やる気が出てくるのではないかと今後それを期待しているのが一つあるんですけどね。

もう一つは、恥ずかしながら、なかなか教員が一体となって、一つの方向を向いているかといったら、私は残念ながらそうは思ってはいなくてですね。それも雇つた2人の方、もともと市役所のときに部長級と課長の方が退職なさって、それに気がつかれたんですよ、まず最初に。それで全員を一つの方向に向けることがまず必要であると。僕も大分言いましたけどもね。それで、Vision2025というのをつくつて、みんなで我々の定款第1条なんんですけども、要するに神戸市の医療、福祉に対して我々は貢献する義務があると。しかし、そのさらに、やっぱり神戸市のリーダーを担っていたら看護師と、それから、保健師を我々は育成する義務があると。それを一つのビジョンの中に入れていただいて、課長の方が全部つくって、それで全学、全部の教科を説明して、やられたんですね。ですから、かなりそれはインパクトがあると思いますので、今後、成果が出てくるんじゃないかなと期待しております。

○委員

よかったです。全然目が違って。中の目じゃなくて、外の目でなさったので、多分効果が出てくると思います。

○委員長

ありがとうございました。ほかよろしいでしょうか。

この後の予定として、評価（案）についての説明をいただくことになっているのですが、評価（案）、先ほど出たんではなかったですかね。

○事務局

そうですね。事務局のほうから評価（案）をご説明する予定でおりましたけど、先ほど、樂木委員長のほうから事務局と委員長のほうで、先生方のご意見も踏まえた上で、評価（案）を法人の自己評価、それが妥当だろうということで評価（案）

も変更なしでというご説明をいただきましたので、改めて。

○委員長

ずっと今の持ち回りの中で、皆さんこれでいいですみたいに、ご意見いただいたと思うんです。追加でございますかね。やっぱりここはちょっと変かとか。

○事務局

いわゆる全体評価という形で、文章的に、いわゆる評価委員会の評価という、結果としてまとめる文章をまとめさせていただいているので、そこだけご説明をさせていただければと思ってございます。

まず2024年度業務実績評価のほうでございます。こちらの資料1-1、目次等おめくりいただき、2ページ目に全体評価と案を載せさせていただいてございます。

こちらにつきましては、先ほどからご議論いただいたような内容を盛り込めていけるかと我々思ってございますが、まず、第2、社会的ニーズに対応した幅広く高い能力を持つ、看護人材の育成のための取組というところにつきましては、オープンキャンパスの来場者数が法人化以降最多を記録。また、広報活動を効果的に実施しております、多様な広報手段を活用して受験生獲得に向けた取組というものを進めておられる。また、国家試験対策においても、きめ細やかな学習支援を行った結果、看護師、保健師、助産師の全ての国家試験合格率100%になったといったことで、大きな成果を上げているということでございます。

第3、学術研究、地域貢献活動、国際交流の推進等による、大学ブランドの確立という項目でございますが、海外の大学との継続的な交流などを積極的に進めておりまして、学生の異文化理解の推進に努めている。また、順調に海外大学との連携協定を締結して、さらに、ダービー大学との共同研究の協定締結も予定をされているということで、今後の継続した関係性の強化、学術交流の推進も期待できる。

加えまして、世界災害看護学会におきまして、市民参加型で防災について考え、新たなニーズへの対応を検討したほか、阪神・淡路大震災の30年シンポジウムを

開催するなど、市民との連携・交流による地域貢献の取組を積極的に進めている。

第4でございますが、業務運営及び財務内容の改善におきましては、理事長・学長のガバナンスと、委員会の関係を整理するとともに、委員会の再編を行い、教職員の負荷軽減に大きく影響をもたらす取組を進めることができたということで、このような取組状況から総合的に評価した結果、中期計画の達成に向け、年度計画の執行は順調に進捗していると認められるということでまとめさせていただいてございます。

続きまして、第1期中期目標期間の業務実績の全体評価でございますが、こちらは、資料2-1になります。こちらもおめくりをいただきまして、目次を超えて2ページになりますが、同じような形で、こちらも年度、中期目標期間といった形でございますけれども、まとめさせていただいてございます。

同じく第2の社会的ニーズに対応した幅広く高い能力を持つ、看護人材の育成のための取組につきましては、過去の受験者データ等の分析に基づいた高校訪問や入学金の引下げ、市内就職奨励金制度の創設に取り組むなど、優秀な学生の確保と就職・キャリア支援に注力した。

また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、教職員一丸となり、学生の状況把握など学習支援体制の整備を進め、学生に対して滞りなく必要な教育を提供した。また、学生への就学支援やキャリア支援におきましても、個々の学生に合わせた手厚い支援を重ねており、その積み重ねが、国家試験合格率や就職率の高い実績につながっているものと評価できる。

第3の学術研究、地域貢献活動、国際交流の推進等による大学ブランドの確立では、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け軽症者宿泊療養施設や市保健所への支援を行うなど、地域の保健医療に大きく貢献をしている。また、保健師キャリア支援センターによる各種研修の企画や実施、キャリア相談や看護師リカレント教育プログラムの実施などによって、地域の看護人材の供給に注力をしました。

第4でございますが、業務運営及び財務内容の改善では、理事会等において大学運営状況について幅広く報告を行い、外部理事・委員から、事業実績や大学運営等に関する意見を積極的に聴取し、開かれた大学の運営推進に努める。また、文部科学省の補助金を獲得し、実習や授業で使用する空間構築シミュレーターを導入したほか、長期保全計画に基づき、大学の魅力を高める施設・設備の整備を行い、教育環境の整備・充実に努めました。

これらのような取組におきまして、総合的に評価した結果、中期目標・中期計画の達成状況は良好であると認められるということで、全体評価としてまとめさせていただいているところでございます。

こちらの文章につきまして、ご意見等ございましたら、いただければ幸いでございます。

○委員長

ありがとうございます。

委員の皆様方、少し見ていただきまして、この内容に加筆修正が必要かどうかをちょっとご判断いただいて、ご意見をいただきたいと思いますが。

ちょっとしばらくお時間をいただきたいと思います。

さっき、いろいろ評価いただいた内容といいますか、記載いただいた内容に関して全体評価としておまとめいただいているということですので、基本的には大きなずれはないはずですが、この文言でよろしいでしょうか。ご質問とかご意見とかよろしいでしょうか。

ございませんか。では、ほかに大学から補足等ございますでしょうか。

ないようでしたら、評価の決定を行いたいと思いますので、大学の皆様方におかれましては、一度、ご退席をお願いいたします。

(看護大学 退席)

○委員

看護大学は助産婦は養成してないんですか。しているんですか。

○委員長

助産婦は、資格の中であればやっているはずですけども。何人いらっしゃるかは、ちょっと数字的に覚えておりませんが。

看護師のところを卒業してから、また、さらという形で希望者が専門で行きますので。

○委員長

20分と書いてあるんですけど、20分も要りますか。

○事務局

そうですね。先ほどからもうかなりご意見とかいただいてございますので、最終的に今、法人の自己評価から変えないという案で話をしてきて、今、大学が退出している中で、いろいろご意見を踏まえて、最後やっぱりここはというようなところ等がありましたら、そこについて決めていただければという場でございます。

○委員長

事前にかなり、それぞれの委員の先生方も見てらっしゃって、その意見を伝えていただいて、まとめているので大きなものはないんじやないかと。えって思うような目標、やっぱり立ててらっしゃるから、そこが評価に落ち込まないとか、評価指標がはっきりしないから、これでいいのと悩んでしまうところが幾つもあったというのは、多分、言葉の端々に、皆さん出てきてらっしゃったので、多分そうなんだろうなと。目標に対して、実際この評価の仕方でよかつたかと。指標が十分であつたかどうかを、足りないところがあった場合に補足でいろいろ説明を聞いたということですので、その上でこれでいいですかという話になるかと思います。

全体評価、大項目評価、小項目評価、それぞれの評価（案）ということで、修正が必要だと思われる場合、ご発言いただきたいのですが、いかがでしょうか。ご意見でも結構でございます。

○委員

中期計画のほうでよろしいですか。24年度に関しては意見はないんです。

経費も節減されておりますし、頑張っておられるのかなと思って、特に意見はないんですけども、中期計画の一番後ろの63ページにある4)業務の改善と経費の適正化という部分で、大変よく頑張っておられる青のマークがついているのは重々承知なんですけども、先ほど、松山委員からご質問があった、23年度ですとか22年度、21年度、中期計画の年度に当たる部分の決算が予算に比してかなりオーバーしていて、この内訳が学内の改修があったということなんですかけども、詳しい内容が分からぬので、ここの中期計画の経費の適正化という点で、24年は適正になったと思うんですが、その前二、三年ぐらいというのがちょっと。

○委員長

22年がBになっていて、23年がAになっている、ここの部分でしょうか。その一つ前ですかね。

○委員

13ページの教育研究経費のところがやっぱりちょっとよく分からなかつたんです。資料がないものですから。

○委員長

一般的な会計の立て方で、私の経験で申し上げて恐縮なんですけども、使いそうなものを全部予算立てて出させて、それを基に予算立てできるものをつくって、使ったかどうか。途中で改修経費とか、急に壊れたようなものとかが出てきたときは、この頃、コロナだったので急にやらないといけなかつたオンライン授業のことがあったんじゃないかと思うんですけども、そこの経費が突然発生して膨らんだとか。見た感じは、ここ2年間だけなんですよね。ほかのところはほぼちゃんと動いているんで、何か特別なものがあったということの、ものが示されてないのはそのとおりなんですけども。私は今、説明を聞いていて、そういうふうに受け取ったんで

すけども、そのところをもってして、やっぱり下げたほうがいいんじゃないかと。

○委員

いえ。下げるとかというのではないのですが。

決定というには何かちょっと資料欲しいなと思ったんです。

特に評価が下がるというか最終的にはよくなっているので、下げる必要はないと思うんですけども、ちょっと決算の内訳が分からぬといいう点で資料を示していくだけわけには。

○委員長

大学の関係者も、後々に整理して出してくださいと私、頼んだので、今は多分すぐには出ないと思うんですけども、どうしましょう。

○事務局

今、委員が言われたように、その結果によって評価が変わるのであれば、今この時点をご決定いただくというのがなかなか難しいのかとは思うんですけども、もし結果が変わることではなくて、今日説明が足りなかつた部分についてもう少し内容をということであれば、先ほど、樂木委員長もおっしゃられたように答えられなかつたものについては個別にきちんと対応というふうにおっしゃっていたので。

○委員

委員全員に配付されるべきものだと思います。

○委員長

そうですね。それがあつて、一旦保留にしてやらなければいけないんですけど、保留ということはあり得ますか。

もし、内容的に評価は変えないんで、説明は要るっていうことであれば、評価はしてしまつた上で、説明をつけることっていう文言をつけて評価をすることは可能だと思うんです。

保留ってないよね。もう一回、委員会集まらなきやいけないですよね。

○神戸市健康局

評価 자체を、今日保留して、改めて委員会を開催をして評価をするということであれば可能性としてはないわけではないんですけども、評価は変わらないという前提であれば、委員の皆様全員に、今回少しちょっと資料の混乱があった部分について、全員に資料の送付なりでご説明をしてご納得いただけたら、それでというような形はあり得るのかと思います。評価 자체に影響するというのであれば、現実的に保留という形になるかと思いますけど、そうでないのであれば、説明を加えさせていただけたらと思います。

○委員長

いかがでしょうか。

○委員

推測でしかないんですけど、24年は予算を下回っていて、前年度以前の内容よりもかなり削減されているので、きっとこれは問題はないんだろうとは思うんですけども、確かに質問を聞いて、回答を聞いていると根拠が分からないので、どうなんでしょうと思ったんです。

○委員長

最終的には収まっているんで、評価として変える必要がないということであれば、今、熊谷局長からご説明があったとおり、評価はしておいて説明を受けると。補足事項として、こここのところの適切な説明を求めるとき、記載するようにとかいう説明までは、評価として加えておいてもいいとは思うんですけども。そのような形でもよろしいですか。

○委員

いいと思いますが、松山委員はいかがでしょうか。

○委員

今、おっしゃったのは事業報告の13ページのことをおっしゃっているのですか。

○委員

そうですね。松山委員がご指摘されたところですね。

○委員

この数字ね。どっから来たか全く分からぬ数字なんですよ。決算書の数字じゃ、決算と書いてあるけど決算書の数字じゃなさそうなんで、何か前提があると思うんですね。決算書から持ってこられてないような感じなんですが。

○委員長

使った指標が違うんでしょうね、多分。

○委員

そうですね。何なんでしょうね、これ。

○委員長

くくりをどうするかが。

○委員

内部管理用に使われている、何かくくりの数字を使われているのかも分かりませんけど。決算と書いておられるから公表されているのは1種類のはずなんですがも、財務諸表とか決算書とかの数字は、例えば、教育研究経費だと1億3,000万円ぐらいなんですね、1億3,000万円何がしなんですけど。数字がちょっと違うので、何かキャッシュフローか何か、それだけを取り出されたのかも分かんないですけど。ちょっと前提を聞かないと何とも言えないですね。

○委員

24年の事業報告書というのは公開されるんですか、資料2-2。

○委員

参考資料も公開するよね。

○委員長

決算は報告されるけれども、この細かい数字まで全部出てくることはないでしょう。

○神戸市健康局

大学関係者が全部退席をしておりますので、細かい数字の部分はお答えしかねますけれども、ただ、松山委員、ご指摘のとおり、本来の財務諸表の損益計算の数値と、この事業報告書で掲げられている数値というのが異なっていますので、違う形で使われているとしか考えられないということですので、あるとしましたら、これは正しい形に一旦、当然整合しているべきものですので、直させていただいて、改めて確認していただくという形になるのかなと思います。

恐らく、毎事業年度、この委員会に報告している損益計算のものを単純に並べたら、同じベースの動きが見れるのではないかと思うんですが、これ財務諸表と違う区分などでくくっているので、先生方に混乱を招いているのかと思いますので、ここは整理をさせていただいて、改めて、ご確認をいただくという形にさせていただけたらと思います。

○委員長

方針としてはそれでよろしいでしょうか。

○委員

ただ、参考資料だから、首尾一貫していないんじゃないかなと思いますけどね。

○委員

そこを突き合わせる市民の方もいらっしゃるんじゃないかと思って、ちょっと心配になったんです。

○委員長

公開でしたっけ。

○委員

一応、委員会資料として公開やね。

○神戸市健康局

明らかに整合してないということが明白ですので、修正をせざるを得ないと思っています。その上で、先生方にまた確認をいただけたらと思います。

○委員

後で、前提がこうだとかいうので答えが出ると思いますので、参考資料やから真剣に作ってない可能性がありますね。

○委員長

でも、公開はされるんですよね、参考資料でも。

○神戸市健康局

過去の例で行くと公開しているようですので、そこを直さなくてはいけないと思います。

○委員長

今ここでこれ以上議論しても、大学の人がいませんから分かりませんので、評価として、これで落ち着けていいかどうかといったところに、戻りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

では、評価はこのとおりでいいと。ただ文言として、参考資料のほうに合わない数字があるといったことについて、その詳細を確認して、各委員に報告して了解を得ることということで決定してよろしいでしょうか。

○委員

財務諸表自体は正しいので、それを拾った、13ページの数字が拾い方が違うんだと思うんですけども、何か言いたいことがあって、そういう数字を集めるケースってあるんですね。比率分析のために書いておられるので。

○委員長

自分でやっているときもありますよね。くくり方を勝手に変えてしまって、何かの目的別につくっちゃったときのものがずっと残ってしまうというのが。よくな

いことですので直していただきましょう。

じゃあ、そういうことで修正、評価（案）を一応、全ての評価が決定したということで、こここのところは終わらせていただいて、次に移りたいと思いますがよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○委員長

なお、評価理由などの文言については、もちろん皆さん方に見ていただいた後ということになりますけども、修正を加えた後、最終の案につきましては、私にご一任いただくということでおよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○委員長

それでは、大学の先生方、戻ってください。

○神戸市健康局

申し訳ありません。確認しましたら、財務諸表の参考資料の部分は対外的には公表してないと。

○委員長

そうですか。じゃあ、評価案のところはここでやって間違いないですね。本当に委員に説明さえきちんとしていただけたら、参考資料は修正をしていただいてということで。

（看護大学 着席）

○委員長

それでは、評価が終わりましたので、基本的には変更なしということですけれども、2020年度業務実績、第1期中期目標期間の業務実績に係る評価結果ですけれども、審議の結果、小項目評価、大項目評価、全体評価ともに評価（案）どおりと決定しました。

ただし、参考資料2-2にございました数字の内容が財務諸表と一致しないと。参考資料については公開はされないということですので、修正の上、内容の説明等を全ての委員に行っていただきまして、その内容を基に最終的な評価（案）のところに修正が必要かどうか、私が皆さんと判断させていただいて決定させていただきたいと思います。

現状では評価案どおりでという結果をいただきました。

この評価結果につきましては後日、評価委員会を代表して私のはうから設立団体の長へ報告させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

よろしいでしょうか。

それでは次に、利益処分についての報告について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

（利益処分について事務局より説明）

○委員長

ありがとうございました。報告事項でありますけども、委員の皆様方からご質問ございますか。今の内容でよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長

ありがとうございます。

それでは、次に地方独立行政法人法改正後の評価委員会の運営につきまして、事務局からご説明をお願いいたします。

（地方独立行政法人法改正後の評価委員会の運営について事務局より説明）

○委員長

ありがとうございます。

ただいまの事務局からの説明につきまして、ご意見はございますでしょうか。

簡略化されるようで評価のほうは、一挙に来ると大変だから、意見交換だけはしましょうということで、意見交換の資料をどのように準備いただかっていうのが難しいところだとは思うんですけども。それは、法の趣旨にのっとって適正な範囲でのものを作っていただかということで行くんではないかと思っております。

よろしいでしょうか、そのような方向で。

ありがとうございました。本日、予定されました議題は以上でございます。この際、委員の先生方から、ほかにご意見がございましたら、お受けしたいと思いますがいかがでしょうか。

○委員

公立大学法人及び国立大学法人の看護学科というのは、募集人員に苦労されるというものが、まだそういう時代に入ってないので、私学もほかの学部、女性系の学部っていうのは定員割れを起こしているんですけども、看護学科は、ほぼ大体充足されているという状態ですけど、やはり少子化の影響は必ずあるので、まず、私学の看護学科募集定員割れを起こして、公立が次にというふうなことになるので、今90%をはるか超えておられるということですけど、これが90%を割り出したら、簡単な解決方法では答えが出ないということで、大変な苦境に陥るという状態になります。今、松蔭や海星など神戸の短大がどんどん共学化したり、大学募集停止したり、池坊短大も募集停止だと思うんですけども、そういうふうにして、事業報告にいつも、この定員割れを何とかしないといけないって、理事全員鋭意努力していますって毎年書いてはんねんけど、全然回復してないですね。ついに募集停止と。お金が残っているうちに、足元の明るいうちに募集停止されるということになるんですけども。

現在、私どもの市看も募集定員を下回る、定員割れを起こすというのは、ちょっと当分、数年の間、考えられないんですけど、これが発生したと、もう手に負えない状態になって誰も答えが出せないということになるので、そのとき、じゃ、どう

いうふうに、お金は公共団体のほうからの支援というふうになるかも分かりませんけれども、実際に、生徒が来なくなつたときに一体どうするかっていうの、そのときにならないと議論始まらないと思うんですけど、そういう場面が一番大変な場面になるんじゃないかなというふうに私は思っております。

以上です。

○委員

今のご意見、本当に私も同様に感じております。この報告書の中で留学生の件やあるいは社会人の方の入学など幾つかの柱を立てておられるっていうのは、長期的というよりは中期的にそこはとても大事なところと、やはり広域の高校からの入学、広域から神戸市で学びたいと考えておられる高校生に来ていただくという形で幾つか手を打っておられますので、そこはより強化していただけたらと思っております。

○委員長

ほかよろしいでしょうか。

経営が、これから先、大変だな、どこの大学でも同じなんでしょうねけれども、單科の看護大というところの難しさっていうのをどう越えていかれるのかっていうのは、大学の皆様方が一番よく考えてらっしゃると思います。少子化の中で、一般の看護学校のところが厳しくなって、また私立の看護大学が厳しくなってって必ず来ると思うんですね。こういう公立のところがどういうステータスを持っていくのかというのは、大学院を併設されているといったところで、質の担保をされているんだろうと思いますけれども、社会のニーズに合っていないことを幾らやってもいかんのちやうかというような話が途中で出ましたけれども、その見直し等も含めてやっていくことで、きっと、さらにいい大学に育っていかれるんだろうなっていうふうな感覚で見ております。

資料のまとめ方を見ても、事務系の皆様方のご努力っていうのは、すばらしいも

のがあると思いますし、教員の先生方がそれについていってらっしゃると。自分たちの力を発揮されているのもよく分かりましたので、このまま頑張っていただきたいなと思います。

○事務局

本日はお忙しいところ、公立大学法人神戸市看護大学の年度評価及び中期目標期間の評価、非常に活発にご議論いただきまして、どうもありがとうございました。いただきました評価の前提になる数値のところ、宿題をいただいているところにつきましては、少し整理をした上で、また委員の皆様方にお答えをさせていただきたいというふうに思ってございますので、よろしくお願ひいたします。

今後とも、また毎年1回程度、お時間をいただくということで、先ほどご了解いただきましたので、法人並びに大学の運営に、引き続き、お力添えをいただきますようよろしくお願い申し上げます。

○委員長

それでは、これで第14回公立大学法人神戸市看護大学評価委員会を終わらせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

閉会 午後4時41分